	一般的名称	報告の概要
454	硫酸イソプロテレノール・臭化メチルアトロピン配合剤	1500g以下の低出生体重時児において、デキサメタゾンの42日間漸減療法後を行い、4-11歳時の脳性麻痺の有無を調べたところ、プラセボ群と比較してデキサメタゾン投与群で脳性麻痺の罹患率が高かった。
455	硫酸マグネシウム	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。
456	硫酸マグネシウム	妊娠高血圧ラットに硫酸マグネシウムを妊娠10日-20日に連続投与したところ、胎仔の心臓形成異常が見られた。
457	ホリナートカルシウム	ステージT3N1の食道癌患者33例を対象とした術前化学療法+術後化学療法+手術のPhaseⅡ試験において、手術前に1例が血管イベントにより死亡した。
458	塩酸セベラマー	健常ボランティア7名において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、チロキシンのAUCが低下することが示唆された。
459	塩酸セベラマー	血液透析患者において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、甲状腺補充療法の必要量が高くなり、TSHレベルが高くなるなど、レボチロキシンの生物学的利用能が低下することが示唆された。
460	ピロキシカム	NSAIDsの胃腸障害リスクをメタアナリシスにより検討した結果、ピロキシカムではリスクが高いことが示唆された。
461	ピロキシカム	NSAIDsの上部消化管穿孔／出血(UGIB)リスクを18報の論文によるメタアナリシスにより検討した結果、NSAIDs曝露によりUGIB発症リスクが高まることが示唆された。
462	ピロキシカム	NSAIDsの胃腸障害リスクをメタアナリシスにより検討した結果、ピロキシカムではリスクが高いことが示唆された。
463	プレドニゾロン	出生前コルチコステロイド反復投与が行われた小児において、脳性麻痺が6例で見られた。
464	塩酸セベラマー	健常ボランティア7名において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、チロキシンのAUCが低下することが示唆された。
465	塩酸セベラマー	血液透析患者において、塩酸セベラマーとレボチロキシンを併用すると、甲状腺補充療法の必要量が高くなり、TSHレベルが高くなるなど、レボチロキシンの生物学的利用能が低下することが示唆された。
466	カベルゴリン	パーキンソン病治療のため長期間にわたり2mg/日以上のカベルゴリン投与を受けた高齢者において、心臓弁膜関連副作用が起こることが示唆された。
467	カベルゴリン	パーキンソン病治療のため長期間にわたり2mg/日以上のカベルゴリン投与を受けた高齢者において、胸膜/肺繊維症関連副作用が起こることが示唆された。
468	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の長期使用により、子宮頸癌および中枢神経または下垂体癌の発生率が上昇することが示唆された。
469	ペグインターフェロン　アルファ－2a（遺伝子組換え）	Recanati-Miller Transplantation Institute databaseを用いた病歴の再検討により、肝移植後のペグインターフェロン　アルファ－2a及びリバビリンの投与により、慢性胆管消失性拒絶反応の発現率が高くなることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
470	リバビリン	Recanati-Miller Transplantation Institute databaseを用いた病歴の再検討により、肝移植後のペグインターフェロン　アルファー2a及びリバビリンの投与により、慢性胆管消失性拒絶反応の発現率が高くなることが示唆された。
471	ピロキシカム	NSAIDsの重篤な皮膚障害発現リスクを検討した結果、ピロキシカムではリスクが高いことが示唆された。
472	塩酸ミトキサントロン	再発・難治性急性骨髄性白血病患者62例を対象とし、Flavopiridol+シタラビン+ミトキサントロンのPhase II 試験において、多臓器不全により2例が、真菌感染により1例が死亡した。
473	ホリナートカルシウム	ステージT3N1の食道癌患者33例を対象とした術前化学療法+術後化学療法+手術のPhase II 試験において、手術前に1例が血管イベントにより死亡した。
474	ジクロフェナクナトリウム	薬剤性の急性肝内胆汁うっ血の患者26例の生化学データを調べたところ。原因薬剤としてジクロフェナクが挙げられた。
475	ケトプロフェン	非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)と血液凝固防止剤又は抗血小板の併用により、NSAIDs単独投与時より消化管出血リスクが高まることが示唆された。
476	プレドニゾロン	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者に吸入副腎皮質ステロイド(ICS)を投与したところ、肺炎による入院率及びその後30日以内の死亡リスクが高まることが示唆された。
477	ロスバスタチンカルシウム	慢性心不全患者患者に対するスタチン追加療法を検討したCORONA試験の結果、心不全に対する至適治療がなされている患者にロスバスタチンを追加投与した際の死因はアテローム性動脈硬化性イベントでなく、心臓状態の悪化に伴うことが示唆された。
478	タダラフィル	18人の男性不妊症患者にタダラフィルを投与したところ、総精子運動率が減少することが示唆された。
479	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータで治療を受けている多発性硬化症患者97例を対象として、中和抗体価を測定したところ、中和抗体価の増加に伴い、インターフェロン　ベータの生物活性が段階的に喪失することが示唆された。
480	プラバスタチンナトリウム	3年を超える期間で収集した58名の間質性肺炎の患者中、プラバスタチン・シンバスタチンの服用例が7例あった。
481	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	子宮頚部腺癌と診断された150名の女性においてケースコントロールスタディを行ったところ、経口避妊薬を12年以上使用している患者で子宮頚癌発症リスクが高まることが示唆された。
482	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	20－44歳も浸潤性子宮頚癌と診断された白人女性においてケースコントロールスタディを行ったところ、経口避妊薬を使用すると扁平上皮癌、腺癌発症示唆された。
483	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬(OC)と癌の関連についてコホート研究を行ったところ、OCを97ヶ月以上使用している患者において子宮頚癌発症リスクが高まることが示唆された。
484	リツキシマブ(遺伝子組換え)	一医療機関において、成人悪性リンパ腫150例を対象としたレトロスペクティブ研究において、リツキシマブ非併用群と比較して、リツキシマブ併用群で有意に遅発性好中球減少症の発現頻度が高かった。
485	リツキシマブ(遺伝子組換え)	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫患者43例を対象としたレトロスペクティブ研究において、リツキシマブ非併用群と比較して、リツキシマブ併用群で有意にlate-onset neutropeniaが多く見られた。

	一般的名称	報告の概要
486	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン中毒による死亡リスクは、若年成人群(60歳未満)と比較して高齢成人群(60歳以上)で高まることが示唆された。
487	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン誘発性の劇症肝炎の患者において、長期抗痙攣薬投与によって死亡率が増加することが示唆された。
488	メトトレキサート	一医療機関における中枢神経原発性悪性リンパ腫患者19例を対象として放射線療法、大量メトトレキサート療法、放射線+メトトレキサート療法を検討した研究において、放射線+メトトレキサート療法において、白質脳症で1例が死亡した。
489	メトトレキサート	一医療機関における中枢神経原発びまん性大細胞Bリンパ腫患者8例を対象としてMEDOCHR療法高用量メトトレキサート+R-CHOP療法を検討した研究において後群で骨髄よく世紀に敗血症、DICにより1例が死亡した。
490	リスペリドン	リスペリドン使用患者において、HTR2C受容体遺伝子多型の変種対立形質を持つ患者は代謝症候群のリスクが高まることが示唆された。
491	ジクロフェナクナトリウム	免疫アレルギー科に入院中の患者中5例はジクロフェナクに起因しており、うち4例はアナフィラキシー反応を呈し、1例は経口投与2時間後に巨大な蕁麻疹を呈した。
492	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の長期使用により、子宮頸癌および中枢神経または下垂体癌の発生率が上昇することが示唆された。
493	標準化スギ花粉エキス	耳鼻咽喉科医745名に対する皮内注射による免疫療法(SCIT)に関するアンケートにおいて、SCITにおける副作用として、局所の異常(注射部位が晴れた、上肢の浮腫、局所の痒みなど)、ショック、呼吸困難(喘息発作、喉頭浮腫など)、全身発疹、症状悪化、悪心があげられた。
494	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、ボリコナゾールあるいはフルコナゾールとの併用のより、ジアゼパムのAUC、血中半減期が増加した。
495	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
496	ボリコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、ボリコナゾールあるいはフルコナゾールとの併用のより、ジアゼパムのAUC、血中半減期が増加した。
497	メシル酸サキナビル	健常人24例を対象とした無作為化クロスオーバー併用試験においてサキナビル投与により、エプレレノンの最血中濃度、AUC、血中半減期が増加した。
498	ワルファリンカリウム	心房細動入院患者18867例を対象としたレトロスペクティブ研究において、有色人種、特にアジア人は白人に比べてワルファリン投与により、頭蓋内出血のリスクが高まることが示唆された。
499	テガフール・ウラシル	進行・再発大腸癌患者14例を対象としたテガフール・ウラシル/ロイコボリン/イリノテカン併用療法のPhase II 試験において、1例が好中球減少のため、入院した。
500	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬使用者において、使用期間が増えるに伴い子宮頸部、中枢神経系、下垂体で発癌リスクが高まることが示唆された。
501	ニトログリセリン	急性非代償性心不全入院患者において、静中利尿剤単独投与の場合と比較して、利尿剤とニトログリセリンの併用静中療法で腎機能悪化の割合が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
502	ニトログリセリン	分娩時に胎児の蘇生のためニトログリセリンを投与された妊婦において、平均心拍数の増加や平均動脈圧の低下がおこることが示唆された。
503	ヘパリンナトリウム	市販の5種類のヘパリンロック製剤の薬液中に0.1ppm～0.01ppm以下の過酸化水素濃度が検出された。
504	エストラジオール	エストロゲン・プロゲスチン併用ホルモン療法により、浸潤性小葉癌発症リスクが高まることが示唆された。
505	アセトアミノフェン	出生当年にアセトアミノフェンを服用した小児において、喘鳴、鼻炎、湿疹などのアレルギー性疾患の発生率が高まることが示唆された。
506	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
507	ホリナートカルシウム	転移性胃癌患者169例を対象としたFOLFIRI+ドセタキセル/シスプラチン療法とマイトマイシンC単剤療法を比較するPhaseⅢ試験において、前群で消化管出血と自殺により2例が死亡した。
508	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者474例を対象としたカペシタビン/オキサリプラチン併用療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン併用療法を比較したランダム化PhaseⅢ試験において前群で敗血症、肺静脈血栓症、動脈血管塞栓症、十二指腸出血、象徴閉塞により、後群では悪性不整脈、急性腎不全、敗血症、激しい下痢を伴う脱水により死亡例がみられた。
509	ジソピラミド	薬物性不整脈、中毒に関連する症例報告データベースを利用したケースコントロール研究において、ジソピラミドの使用により薬物性不整脈発現リスクが高まることが示唆された。
510	ワルファリンカリウム	ワルファリンに関連した頭蓋内・頭蓋外出血を認めた非弁性心房細動患者13559例を対象としたレトロスペクティブ研究において、頭蓋外出血よりも頭蓋内出血の方が重篤な機能障害や死亡にいたる例が多かった。
511	イブプロフェン含有一般用医薬品	NSAIDsで関節炎の治療を受けた18歳以上の患者のコホート内症例対照研究により、イブプロフェンの使用により脳卒中の発現リスクが高まることが示唆された。
512	シンバスタチン	スタチン製剤服用により、重症筋無力症をおこした11例。
513	ヒトインスリン（遺伝子組換え）	インスリン導入目的で入院した119人において、インスリン導入後の肝障害（AST，ALT上昇）率が高いことが示唆された。
514	リン酸オセルタミビル	2005/2006シーズンのAH1型51株中2株にH274Yの変異が認められ、NA活性による薬剤感受性試験でもオセルタミビルに対し感受性の低下が認められた。
515	リン酸オセルタミビル	神奈川県下の小児科診療所および病院434施設を対象に行なったアンケート調査において130例の異常行動の報告がなされ、このうち「飛び出し・飛び降り」症例は19例であり、うちオセルタミビル使用例は47.5%であった。
516	リン酸オセルタミビル	2005/2006シーズンのAH1型51株中2株にH274Yの変異が認められ、NA活性による薬剤感受性試験でもオセルタミビル・ザナミビルに対し感受性の低下が認められた。

	一般的名称	報告の概要
517	レボホリナートカルシウム	大腸癌患者67例を対象としたFOLFOX6/ベバシズマブ/cetuximabのPhase II試験において、好中球減少症および下痢と肺線維症により2例が死亡した。
518	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	n-2-butylcyanoacrylateとエチオドールの混液を静脈モデルに投与したところ、血液凝固や血球円柱がみられ、ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル単独でも胎盤の末梢血管に塞栓形成が見られた。
519	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	シスプラチンとヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルを投与された原発性肝臓癌患者において、腹痛、悪心・嘔吐、胃部不快感、発熱が高頻度に発現し、シスプラチン単独投与の場合と比べ、早期に重篤な血小板減少がが誘起されることが示唆された。
520	ミコナゾール	副作用症例報告データベース(CARPIS)を用いたケースコントロール研究において、日本人の不整脈の起因薬剤として、ジソピラミド、塩酸リトドリン、ミコナゾール、ハロタン、塩酸チオリダジン、チオペンタールナトリウムで有意差が認められた。
521	ベタメタゾン	芍薬甘草湯とセンナ製剤を併用した30人中6人で低カリウム血症が発症した。
522	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
523	セレコキシブ	セレコキシブを高用量使用すると、心血管系イベントの発生リスクが高まり、ベースラインリスクが高い患者で本剤に関連する心血管系イベントのリスクが高まることが示唆された。
524	ジクロフェナクナトリウム	CYP2C9で代謝されるNSAIDs・COX IIの急性使用者により胃十二指腸出血病変のある26名において、CYP2C9＊1/＊3やCYP2C9＊1/＊2型の割合が高かった。
525	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
526	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	BRCA1/2変異保有者で経口避妊薬を使用した場合、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
527	インターフェロン　ベーター1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータによる中和抗体が、皮下投与で14～62%、筋肉内投与で2～18%の発生頻度で報告されている。
528	ホスフェストロール	新生仔期にホスフェストロールを高用量投与された雌ラットニおいて、乳癌が頻発する可能性が示唆された。
529	リファンピシン	結核を有するHIV感染患者3例を対象としたアタザナビルとリトナビルを含む抗レトロウィルス治療とリファンピシンの併用時の薬物動態をプロスペクティブに検討したところ、アタザナビルの血中濃度が低下することが示唆された。
530	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン(CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhase III試験において、両群で各3例死亡した。
531	リツキシマブ(遺伝子組換え)	indolentまたはハイリスクaggressive B細胞性非ホジキンリンパ腫患者46例を対象として移植前のリツキシマブ投与群、非投与群を比較したところ、リツキサン投与群で移植後のサイトメガロウィルス感染リスクが高くなることが示唆された。
532	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬使用者において、使用期間が増えるに伴い子宮頚部、中枢神経系、下垂体で発癌リスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
533	酢酸メドロキシプロゲステロン	エストラジオールとプロゲステロン処理をした接着細胞上に単球細胞を一定の流速で流したところ、エストラジオール単独処理の場合と比較して接着亢進が見られた。
534	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象とした無作為化試験において、3例が死亡した。
535	アセトアミノフェン	ワルファリンを投与されている患者において、アセトアミノフェンの併用により出血リスクの上昇が示唆された。
536	シメチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
537	ピロキシカム	メタアナリシスにより、ピロキシカムは他のNSAIDsと比較して胃腸系リスクが高まることが示唆された。
538	シクロスポリン	ヒト結腸がん由来細胞株Caco-2細胞を用いてシクロスポリンとプラバスタチンの相互作用を検討したところ、プラバスタチンがMRP2を介してシクロスポリンの排出を抑制したことが示唆された。
539	メトロニダゾール	基礎肝疾患を持つ4例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝機能障害のある患者では低用量で脳症やニューロパシーを誘発することが示唆された。
540	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
541	レボホリナートカルシウム	未治療の転移性結腸直腸癌患者38例を対象とした無作為化試験において、modified FOLFOX7/ベバシズマブ群で1例が穿孔で死亡し、modified XELOX/ベバシズマブ/erlotinib群で下痢で1例が死亡した。
542	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
543	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/フルオロウラシル/アイソボリンの第Ⅱ相試験において、過敏症反応、敗血症性下痢でそれぞれ1例が死亡した。
544	アミノ安息香酸エチル	経食道心エコー検査(TEE)などの内視鏡手術時におけるアミノ安息香酸エチルを使用した患者において、メトヘモグロビン血症の発現が高まることが示唆された。
545	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊婦4名への硫酸マグネシウム投与により、出生した児で高マグネシウム血症、低カルシウム血症が起きた。
546	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
547	塩酸ラニチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
548	テガフール・ウラシル	70歳以上の結腸直腸癌患者175例を対象として、術後補助化学療法群95例と緩和的ファーストライン化学療法群80例への質問票による調査において、後群で1例が死亡した。

	一般的名称	報告の概要
549	エストラジオール	エストロゲン・プロゲスチン併用ホルモン療法により、浸潤性小葉癌発症リスクが高まることが示唆された。
550	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
551	メルカプトプリン	炎症性大腸炎患者1217例を対象としたレトロスペクティブコホート研究において、大腸癌10例、非ホジキンリンパ腫6例、基底細胞癌6例、乳癌6例が認められ、アザチオプリンまたはメルカプトプリンの投与期間が影響することが示唆された、
552	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者169例を対象としたFOLFIRI+ドセタキセル/シスプラチン療法とマイトマイシンC単剤療法を比較するPhaseⅢ試験において、前群で消化管出血と自殺により2例が死亡した。
553	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者474例を対象としたカペシタビン/オキサリプラチン併用療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン併用療法を比較したランダム化PhaseⅢ試験において前群で敗血症、肺静脈血栓症、動脈血管塞栓症、十二指腸出血、象徴閉塞により、後群では悪性不整脈、急性腎不全、敗血症、激しい下痢を伴う脱水により死亡例がみられた。
554	ホリナートカルシウム	フルオロウラシルまたはカペシタビンをベースとした化学療法を受けたがん患者644例を対象としたプロスペクティブ研究において、伝導異常がみられた1例が死亡した。
555	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
556	ヘパリンナトリウム	心臓手術後に術後血小板減少症を生じた患者487例を対象としたレトロスペクティブケースコントロール研究において、HIT抗体陽性患者で急性四肢虚血、腎不全の発生率、30日間死亡率が高かった。
557	塩酸ゲムシタビン	75歳以上の未治療の非小細胞肺癌患者39例を対象として、ゲムシタビン/ビノレルビン併用療法とゲムシタビン/ドセタキセル併用療法を比較したプロスペクティブ無作為化phaseⅡ試験において、血液毒性、肺毒性、下痢、浮腫がみられた。
558	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
559	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
560	ヒトインスリン（遺伝子組換え）	2年以上前からインスリン注射を行っている糖尿病患者において、インスリンの注射期間と注射手順により、リポハイパトロフィーの発現率が高まることが示唆された。
561	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
562	ファモチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
563	プレドニゾロン	肝移植後にタクロリムスを単独投与されている患者と比べ、タクロリムスととプレドニゾロンを併用している患者では、ヒトーサイトメガロウイルス感染率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
564	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
565	リン酸オセルタミビル	ブタ腎臓上皮由来細胞およびヒトMDR1導入由来細胞、ヒト結腸癌由来細胞を用いた研究において、タミフルがMDR1の機能を阻害して脳に何らかの影響を与えている可能性が示唆された。
566	レボホリナートカルシウム	70歳以上の結腸直腸癌患者175例を対象として、術後補助化学療法群95例と緩和的ファーストライン化学療法群80例への質問票による調査において、後群で1例が死亡した。
567	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
568	リン酸ベタメタゾンナトリウム	出生前コルチコステロイド反復投与が行われた小児において、脳性麻痺が6例で見られた。
569	硫酸マグネシウム	硫酸マグネシウムを投与された母親から出生した超早産児において、動脈管閉鎖日齢が遅れる傾向が見られた。
570	ホリナートカルシウム	フルオロウラシルまたはカペシタビンをベースとした化学療法を受けたがん患者644例を対象としたプロスペクティブ研究において、伝導異常がみられた1例が死亡した。
571	非ピリン系感冒剤(2)	妊娠後期のアセトアミノフェンの接取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
572	ジアゼパム	海外健常人12名において、ボリコナゾール又はフルコナゾール投与中のジアゼパムの反復投与により、ジアゼパムのAUCが増加することが示唆された。
573	リスペリドン	認知症の診断後に抗精神病薬を投与された患者は、抗精神病薬でない薬剤を投与された患者に比べ、死亡率が高まることが示唆された。
574	ジクロフェナクナトリウム	急性腰痛患者にジクロフェナクを投与したところ、胃腸障害、浮動性めまい、動悸などがみられ、1名で過敏症反応があらわれた。
575	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile大腸炎の再発リスクが増加することが示唆された。
576	メトトレキサート	軟髄膜播種を伴う悪性脳腫瘍を有する10歳未満の小児40例を対象とした高用量メトトレキサートを用いた強化療法の臨床試験において、2例が死亡した。
577	メトトレキサート	第IV期ヒト免疫不全ウィルス関連バーキットリンパ腫患者63例を対象としてLMB86レジメンを検討したプロスペクティブ研究において、7例が死亡した。
578	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの接取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
579	プレドニゾロン	関節リウマチの患者に疾患修飾性抗リウマチ薬(DMERDs)を投与すると、肺血症性関節炎の発症率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
580	クエン酸タモキシフェン	ホルモン受容体陽性患者の閉経後女性8028例を対象としたレトロゾール群とタモキシフェン群の無作為化二重盲検試験(BIG1-98試験)においてグレード3～5の副作用を比較したところ、レトロゾール群で心疾患の発生率が高く、タモキシフェン群で血栓塞栓症が多かった。
581	エポエチンα(遺伝子組換え)	原発性骨髄線維症患者311例を対象としたレトロスペクティブ研究において、エリスロポエチン刺激製剤が白血球病性形質転換に関与している可能性が示唆された。
582	ダルベポエチン　アルファ(遺伝子組換え)	原発性骨髄線維症患者311例を対象としたレトロスペクティブ研究において、エリスロポエチン刺激製剤が白血球病性形質転換に関与している可能性が示唆された。
583	エタネルセプト(遺伝子組換え)	2つの自発報告データベースを用いた検討において、インフリキシマブ、アダリムマブと比較してエタネルセプト投与群で有意にブドウ膜炎の発現が多かった。
584	ジクロフェナクナトリウム	非ステロイド系鎮痛剤(NSAIDs)の使用により胃腸粘膜障害が起こり、再発を繰り返す例ではHelicobacter Pylory感染が関与していることが示唆された。
585	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク投与患者において、短期・中期・長期投与郡の上部消化管障害率は24%、41%、77%であり、長期投与患者では8割の患者で上部消化管障害が発症した。
586	ヘパリンナトリウム	一医療機関においてヘパリンを投与されたHIV感染患者53例と非感染患者106例を対象としたレトロスペクティブコホート研究において、HIV感染患者ではHITの発生率が高いことが示唆された。
587	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	20件、3458例を対象とした系統的レビューにおいて危篤患者集団へのアンチトロンビン3の投与は死亡率を減少させなかった。また、出血のリスクを増加させた。
588	臭化ベクロニウム	術中腹腔内灌流温熱化学療法(HIIC)中のベクロニウム投与で、作用時間の短縮が見られた。
589	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの接取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
590	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者547例を対象としたランダム化PhaseⅢ試験(BICC-C study)において、治療開始60日以内死亡率がFOLFIRIで3.6%、mIFLで5.1%、CapeIRIで3.5%、FOLFIRI/ベバシズマブで1.8%、mIFL/ベバシズマブで6.8%であった。
591	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為交差試験において、ボリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの血中濃度を増加させることが示唆された。
592	エストラジオール	ホルモン補充療法使用者は、非使用者と比較してドライアイの発症が高まることが示唆された。
593	クエン酸シルデナフィル	ダルナビル/リトナビルと本剤を併用した場合、本剤のCmax、AUCが高まることが示唆された。
594	ダナゾール	赤血球生成促進薬あるいはダナゾールは、赤芽球又は血小板レベルと関係なく、遅発性の白血病と関連することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
595	メトトレキサート	侵襲性リンパ腫の中枢神経系再発患者10例を対象としたパイロットスタディにおいて、高用量メトトレキサートとイホスファミドの併用試験において、好中球減少症による敗血症で1例が死亡した。
596	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	免疫抑制療法を行った再生不良性貧血患者387例を対象としたプロスペクティブ研究において、G-CSFの投与期間の減少により、モノソミー7を伴う骨髄異形成症候群/急性骨髄性白血病への移行症例が減少した。
597	カルバマゼピン	カルバマゼピン、フェニトイン、ラモトリジンを使用した香港の漢民族において、HLA-B*1502型の患者で重篤皮膚反応の発生率が高まることが示唆された。
598	カルバマゼピン	カルバマゼピンによってTEN/SJSが生じた12名において、アジア系4名はHLA-B*1502陽性、西洋系8名はHLA-B*1502陰性だったことから、HLA-B*1502はTEN/SJSの普遍的遺伝子マーカーでなく、民族性が重要であると考えられた。
599	リン酸オセルタミビル	頂端膜上にヒトP-糖タンパクを発現している細胞を使用した経細胞輸送アッセイとMdr1a/1bノックアウトマウスを使用したin vivo試験において、オセルタミビルの脳への輸送にはP-糖タンパクが関与している可能性が示唆された。
600	リン酸オセルタミビル	Mdr1a/1bノックアウトマウスを使用したin vivo試験、ヒトおよびマウスP-糖タンパク発現細胞を用いたin vitro試験において、P-糖タンパクがオセルタミビルの血液脳関門透過に関わることが示唆された。
601	クレアチニンキット(体外診断用医薬品)	プール血清にドブタミンを添加し、トリンダー試薬と反応させる実験を行ったところ、測定値に負の誤差(数%-40%程)生じることがあり、過ヨウ素酸ナトリウムの添加により回避の可能性があることが示唆された。
602	インドメタシン	うっ血性心不全で入院した66歳以上の患者において、インドメタシンとロフェコキシブを使用において、うっ血性心不全での再入院率が高まることが示唆された。
603	リスペリドン	認知症の診断後に抗精神病薬を投与された患者は、抗精神病薬でない薬剤を投与された患者に比べ、死亡率が高まることが示唆された。
604	サラゾスルファピリジン	一般診療研究データベース(GPRD)を使用したリウマチ性関節炎患者34250例と対照102747例の症例対照研究において、ペニシラミン、スルファサラジン、プレドニゾロン服用と敗血症性関節炎の発症率増加との関連が認められた。
605	ジクロフェナクナトリウム	健常白人男性10名において、ボリコナゾールとジクロフェナクの併用により、ジクロフェナクのAUC,Cmaxが上昇することが示唆された。
606	ケトプロフェン	出血性胃潰瘍患者において、非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)の使用が用量依存的なリスクファクターとなることが示唆された。
607	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
608	リファンピシン	イソニアジド/リファンピシンでの結核治療を行った肺結核患者19例を対象とした薬物動態試験において、リファンピシン、イソニアジド、モキシフロキサシンの併用でモキシフロキサシンの血漿中濃度が低下した。
609	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
610	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者547例を対象としたランダム化PhaseⅢ試験(BICC-C study)において、治療開始60日以内死亡率がFOLFIRIで3.6%、mIFLで5.1%、CapeIRIで3.5%、FOLFIRI/ベバシズマブで1.8%、mIFL/ベバシズマブで6.8%であった。

	一般的名称	報告の概要
611	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	重症敗血症患者653例を対象とした多施設共同無作為化二重盲検プラセボ比較試験において、静注用免疫グロブリンの補助療法は28日死亡率においてプラセボと有意な差を認められなかった。
612	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	重症敗血症患者を対象とした14の無作為化臨床試験のメタアナリシスにおいて、質の高い試験のみを解析した際、ポリクローナル免疫グロブリン静注補助療法は死亡率を低下させなかった。
613	クラリスロマイシン	一医療機関においてビノレルビンを含む化学療法が開始された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向きコホート研究において、クラリスロマイシン併用により好中球減少のリスクが高まることが示唆された。
614	フルコナゾール	12例の健常人を対象とした無作為交差試験において、ボリコナゾールあるいはフルコナゾールがフェンタニルの血中濃度を増加させることが示唆された。
615	ジゴキシン	うっ血性心不全のみられない心房細動患者へのジゴキシンの長期投与は死亡リスクを高めることが示唆された。
616	リスペリドン	定型抗精神病薬デポを使用している統合失調症の患者において、長時間作用型リスペリドンへの切り替えにより、プロラクチン値が高まることが示唆された。
617	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
618	ジクロフェナクナトリウム	脊椎麻酔下で股関節形成手術を実施した患者において、NSAIDsを投与された群では術後5日間での出血量が多いことが示唆された。
619	カルバマゼピン	中国人患者におけるHLAB* 1502とカルバマゼピンによるスティーブンス・ジョンソン症候群の関連性が報告されているが、HLAB* 1502は白人集団でのカルバマゼピンによる過敏症のマーカーにはならないことが示唆された。
620	カルバマゼピン	漢民族において、カルバマゼピンによるSJS/TENにはHLAB* 1502遺伝子が強く関連することが報告されているが、斑状丘疹状皮疹、過敏症症候群などの有害な皮膚反応との関連性は示唆されたなかった。
621	カルバマゼピン	台湾の漢民族において、HLAB* 1502とSJSの間に強い関連性が見られた。
622	エポエチンα（遺伝子組換え）	一医療機関において、末期腎疾患患者90例を対象として診療録を調査したところ、エリスロポエチン投与により増殖性網膜症の罹患率・重症度が高まることが示唆された。
623	非ピリン系感冒剤（3）	アセトアミノフェン誘発性の劇症肝炎の患者において、長期抗痙攣薬投与によって死亡率が増加することが示唆された。
624	リスペリドン	新規抗精神病薬単剤投与中の統合失調症患者において、リスペリドンを投与された患者ではQT間隔延長が見られた。
625	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
626	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	肝細胞癌に対する経カテーテル的肝動脈塞栓症をおこなった535例のうち、左骨動脈からのアプローチ（TAE）群で穿刺部疼痛が29例、手指の知覚異常が7例、大腿動脈からのアプローチ群で皮下血腫が10例、穿刺部の疼痛が14例みられた。

	一般的名称	報告の概要
627	チオテパ	固形腫瘍患者43例を対象とした大量化学療法の有効性の検討において、full dose regimen投与時のほうが、reduced dose regimen投与時と比較して有意にgrade4非血液毒性発生率が増加した。
628	クエン酸シルデナフィル	ダルナビル/リトナビルと本剤を併用した場合、本剤のCmax、AUCが高まることが示唆された。
629	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	健康女性18人において、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールとダルナビル/リトナビルの併用により、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールのAUC、Cmaxが低下することが示唆された。
630	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	健康女性18人において、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールとダルナビル/リトナビルの併用により、ノルエチステロン及びエチニルエストラジオールのAUC、Cmaxが低下することが示唆された。
631	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	1997年10月～2007年7月までに静注免疫グロブリンが被疑薬である脳血管障害10例(うち1例死亡)、血栓症6例、心筋梗塞4例、肺塞栓2例、一過性脳虚血発作1例が報告された。
632	ヨウ化プラリドキシム	日本臨床検査薬協会の統一プロトコールで各種血糖測定器を用いて行なわれたヨウ化プラリドキシムの血糖測定値に対する影響度の確認において、治療域と考えられる濃度範囲においても偽高値が認められた。
633	ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	ビノレルビンを含む化学療法が開始された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向き研究において、クラリスロマイシン併用によりビノレルビンの好中球減少が増強されることが示唆された。
634	ブドウ糖	ST上昇型心筋梗塞患者11462例を対象としたグルコース・インスリン・カリウム療法についての後ろ向き研究において、死亡、心不全等を対照群と比較したところ、有益性が見られなかった。
635	ニコチン含有一般用医薬品	マウスにおいて、皮下に結腸癌細胞を接種しニコチンを経口投与させたところ、接種した結腸癌の発育が加速することが示唆された。
636	ニコチン含有一般用医薬品	胃がん細胞を胃壁に移植した胸腺無形成ヌードマウスにおいて、ニコチンを3ヶ月経口投与したところ、癌領域がより大きく成長し、PCNA(増殖性細胞核抗原)染色や微小管血管密度をそれぞれ70%,30%増加させた。
637	クレアチニンキット(体外診断用医薬品)	プール血清にドブタミンを添加し、トリンダー試薬と反応させる実験を行ったところ、測定値に負の誤差(数%-40%程)生じることがあり、過ヨウ素酸ナトリウムの添加により回避の可能性があることが示唆された。
638	ホリナートカルシウム	ステージⅡ/Ⅲ結腸癌患者1857例を対象としたアジュバント療法に関するランダム化臨床試験において、2例が腸敗血症(FLOx療法)で、3例が腸壁損傷と腸敗血症(2例FLOX療法、1例FL療法)にて死亡した。
639	スピロノラクトン	心不全患者において、スピロノラクトンを使用している場合、高カリウム血症発症リスクが高まることが示唆された。
640	ジゴキシン	標準治療を受けている心収縮機能不全患者において、ジギタリスの使用は、死亡や心不全による初回入院リスクを高めることが示唆された。
641	メチルジゴキシン	標準治療を受けている心収縮機能不全患者において、ジギタリスの使用は、死亡や心不全による初回入院リスクを高めることが示唆された。
642	テオフィリン	慢性閉塞性肺疾患(COPD)と診断された45歳以上のアメリカ退役軍人コホートから、テオフィリンを使用した患者では死亡率が高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
643	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの接取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
644	エストラジオール	フランスでのプロスペクティブコホート試験において、閉経後女性でエストロゲンを単独使用している患者では、乳癌リスクが上昇することが示唆された。
645	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	明らかな心血管系疾患のない女性において、経口避妊薬を長期(10年間)使用した場合、頚動脈プラーク、大腿動脈プラークの保有率が高まることが示唆された。
646	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
647	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	進行・再発管内胆管癌症例で、肝外転移を伴わない症例30例において、レシチン加リピオドールと塩酸ドキソルビシンの動注を施行した5例で、心窩部不快感、吐き気、肝逸脱酵素の上昇、肝膿瘍の副作用が見られた。
648	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	切除不能多発肝細胞癌で、レシチンを用いた小粒子リピオドールエマルジョンを施行した21例において、発熱、食欲不振、悪心、肝機能障害、膵炎、冠動脈閉塞が見られた。
649	塩酸エルロチニブ	国内で実施中の切除不能膵癌患者に対するエルロチニブとゲムシタビン併用の第Ⅱ相臨床試験において、2008年1月26日時点で因果関係が否定できない重篤な間質性肺疾患様事象が106例中7例に報告され、海外第Ⅲ相臨床試験と比較して発現率が高かった。
650	ホリナートカルシウム	局所進行直腸癌患者155例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン静注投与とテガフール・ウラシル/ロイコボリン経口投与を比較した多施設ランダム化試験において、前群で1例が急性の白血球減少症により、1例が急性腸穿孔により、2例が遅発性消化管合併症により死亡した。また、後群では外科手術の重篤合併症により1例が死亡した。
651	レボホリナートカルシウム	ステージⅡ/Ⅲ結腸癌患者1857例を対象としたアジュバント療法に関するランダム化臨床試験において、2例が腸敗血症(FLOx療法)で、3例が腸壁損傷と腸敗血症(2例FLOX療法、1例FL療法)にて死亡した。
652	ベシル酸アムロジピン	胃腸障害が事前にあった患者において、カルシウム拮抗薬服用中に胃食道逆流性症状の悪化が見られた。
653	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した国内の小児において、アセトアミノフェンを使用している群は、未使用群と比較して、意識障害の発現リスクが高まることが示唆された。
654	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
655	マレイン酸フルボキサミン	副甲状腺または甲状腺の可視化剤として塩化メチルチオニニウム(メチレンブルー)を静脈内に投与した際に中枢神経系毒性が生じた27例中、26例でセロトニン作動薬が使用されていた。
656	ベザフィブラート	糖尿病性高脂血症患者において、フィブラートとチアゾリジンジオンの併用治療により、HDLコレステロールが低下することが示唆された。
657	エストラジオール	40-65歳の女性において、エストロゲン単独療法を行った患者で乳癌のリスクが高まることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
658	硫酸アバカビル	HIV患者33347例を対象としたプロスペクティブ研究において、アバカビルやジダノシン投与により、心筋梗塞発現の増加させることが示唆された。
659	アスピリン	グルコース6リン酸脱水素酵素欠損小児20例のうち、chloroquine単独9例、chloroquine/クロラムフェニコール/アスピリン併用1例、chloroquine/アスピリン併用3例、アスピリン単独4例が血管内溶血を発現し、20例のうち11例が腎不全を発現した。
660	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	明らかな心血管系疾患のない女性において、経口避妊薬を長期(10年間)使用した場合、頚動脈プラーク、大腿動脈プラークの保有率が高まることが示唆された。
661	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルを用いて肝動脈塞栓療法を実施した14名において、悪心、血清アルブミン減少及び血小板減少が見られた。
662	リン酸オセルタミビル	2006/2007年に迅速診断キットにてインフルエンザAあるいはBと診断された患者948例を対象とした調査において、インフルエンザBではオセルタミビルあるいはザナミビル水和物の有用性が確認されなかった。
663	リン酸オセルタミビル	H5N1型インフルエンザ患者16例を対象とした調査において、リン酸オセルタミビルによる治療は明らかな治療効果が得られなかった。
664	リスペリドン	3ヶ月以上の間すくなくとも1種の抗精神病薬を使用している患者の遺伝子多型を解析したところ、HTR2C遺伝子の変異体は、リスペリドンを使用している患者で代謝症候群と特異的な関連性のあることが示唆された。
665	ジクロフェナクナトリウム	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
666	リスペリドン	10名の健康男性において、リスペリドンとリファンピシンの併用により、リスペリドンとその活性代謝物の血中濃度が低下することが示唆された。
667	エダラボン	in vitroにおいて、膵癌細胞株をエダラボン及びプテリン誘導体存在下インキュベートしたところ、活性酸素が誘導され、細胞死を誘発すること示唆された。
668	ジクロフェナクナトリウム	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
669	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
670	リセドロン酸ナトリウム水和物	患者データベースを用いて65歳以上の心疾患を有する無腐性骨壊死患者196例、コントロール1960例のケースコントロール研究において、ビスホスホネート製剤投与により無腐性骨壊死のリスクが高まることが示唆された。
671	オメプラゾール	冠動脈ステント留置後にアスピリンおよびクロピトグレルを投与している患者126名において、オメプラゾンの併用により抗血小板作用が現弱することが示唆された。
672	ロピナビル・リトナビル	健康成人88例を対象としたクロスオーバー無作為化オープンラベル試験において、ロピナビル/リトナビルの投与によりPR間隔が延長することが示唆された。
673	リトナビル	健康成人88例を対象としたクロスオーバー無作為化オープンラベル試験において、リトナビルの投与によりPR間隔が延長することが示唆された。